

インターバンクの声（2015年7月21日）

東京市場が休場となった昨日は、中国上海株が堅調に推移、欧米市場でも特に目立つ材料もない中で、ギリシャが欧州中央銀行（ECB）や国際通貨基金（IMF）に債務を返済したことが話題の中心になるなど、全般的に穏やかな市場だった。ニューヨーク市場の後半では低下していたようだが、米連邦準備理事会（FRB）の年内利上げ観測や米企業決算の好調な滑り出しで米国債利回りが上昇、これが支えになって全般的にドル買いが進みドル指数も約3ヵ月ぶりの高値水準に上昇した。それでもニューヨーク・ダウは、僅かな上げ幅に留まっており、株式市場は原油、金、銅などの商品価格の下落が気になっていたようだ。今週はこの後もアップルやマイクロソフトなどの企業決算が注目されるが、利上げの決定は指標次第と繰り返す当局の姿勢もあり、水曜日や金曜日に発表される住宅関連指標の結果も注目されることになりそうだ。波乱がなければ来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）を待たずに125円突破を試すような展開も見られるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。